

# 宮城県稲作情報

宮城県稲作安定対策本部 ・ 社団法人みやぎ原種苗センター

平成11年10月6日発行

第7号

編集  
宮城県農業センター

## 気象経過と生育の特徴

登熟期間は気温高く、日較差小さい

ひとめぼれの成熟期 9月10日、平年より8日早い

## これから作業の要点

適正な乾燥調製で品質確保

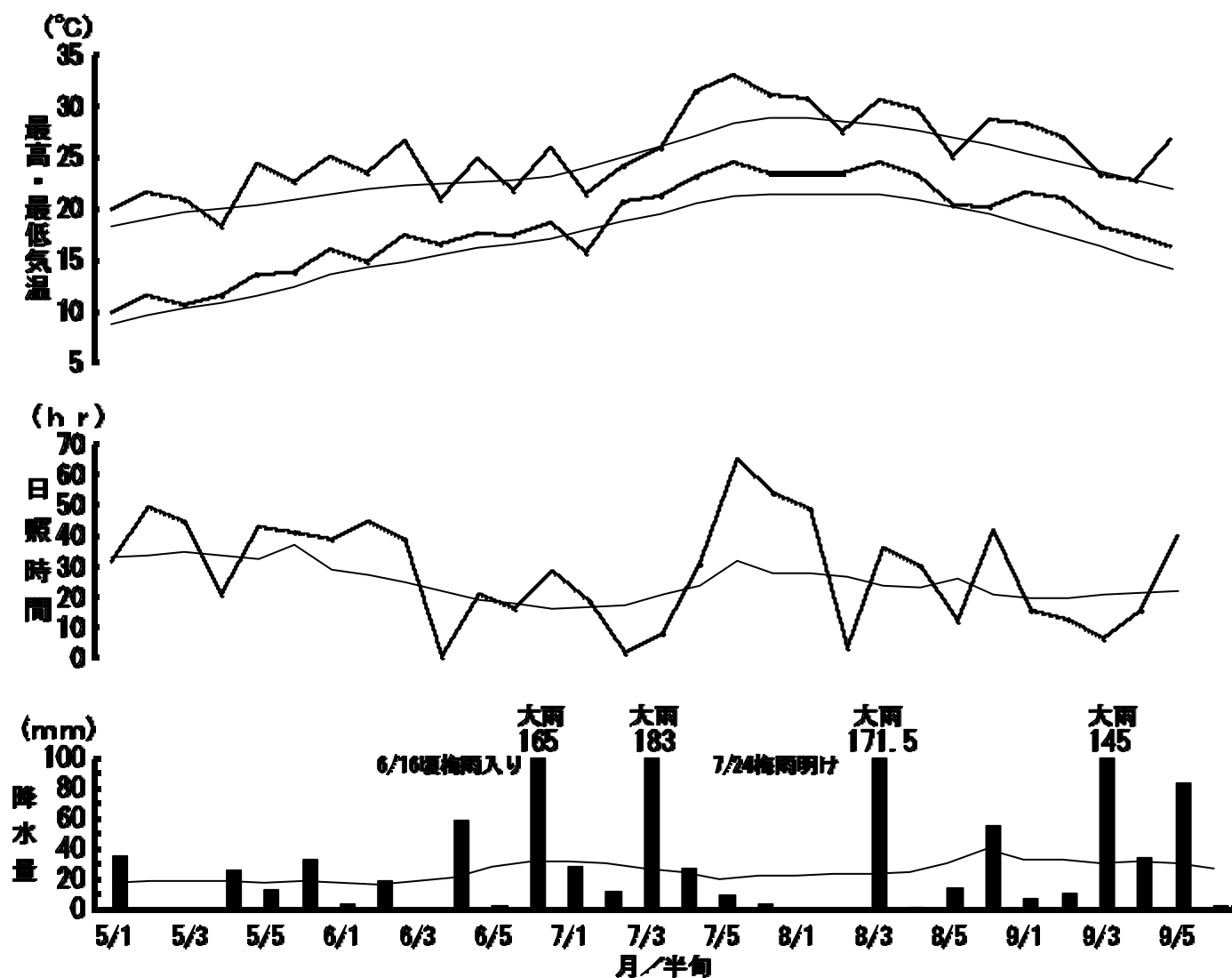


図1 気象経過 (観測地点: 仙台管区气象台)  
(5月第1半旬～9月第6半旬)

# 気象経過 登熟期間 気温高く、日較差小さい

## 【気象経過】

9月に入ってから引き続き気温の高い状態が続いた。最高気温は、9月第1半旬から第3半旬にかけては平年より2以上高く、最低気温は第2半旬と第3半旬では平年より3以上高かった。

9月上旬の後半から中旬にかけて雨が降り続き、第3半旬が145ミリ、第5半旬は83.5ミリの大雨となった(図1)。

## 【登熟期間の気象】

登熟期間の気象状況について、県平均出穂期(本年は8月1日)の翌日から5日間ごとに集計した結果が表1で

表1 登熟期間の気象

| 出穂後日数 | 本 年    |      |     |              | 平年差・比  |      |      |             |
|-------|--------|------|-----|--------------|--------|------|------|-------------|
|       | 気 温( ) |      |     | 日照時間<br>(hr) | 気 温( ) |      |      | 日照時間<br>(%) |
|       | 最 高    | 最 低  | 日較差 |              | 最 高    | 最 低  | 日較差  |             |
| 1～5日  | 30.5   | 23.2 | 7.3 | 51           | +1.8   | +1.8 | 0.0  | 182         |
| 6～10  | 30.5   | 23.5 | 7.0 | 41           | +1.9   | +2.1 | -0.2 | 151         |
| 11～15 | 26.9   | 23.3 | 3.6 | 3            | -1.5   | +1.9 | -3.4 | 13          |
| 16～20 | 30.8   | 24.3 | 6.5 | 42           | +2.9   | +3.0 | -0.1 | 177         |
| 21～25 | 29.0   | 22.6 | 6.4 | 25           | +1.5   | +1.8 | -0.3 | 108         |
| 26～30 | 24.7   | 20.3 | 4.4 | 7            | -2.2   | +0.1 | -2.3 | 31          |
| 31～35 | 28.6   | 20.1 | 8.5 | 41           | +2.5   | +0.7 | +1.8 | 203         |
| 36～40 | 28.3   | 21.5 | 6.8 | 16           | +3.0   | +3.1 | -0.1 | 80          |
| 41～45 | 26.8   | 21.0 | 5.8 | 13           | +2.4   | +3.6 | -1.2 | 65          |

注) 仙台管区気象台データ 気温は期間平均値、日照時間は期間積算値

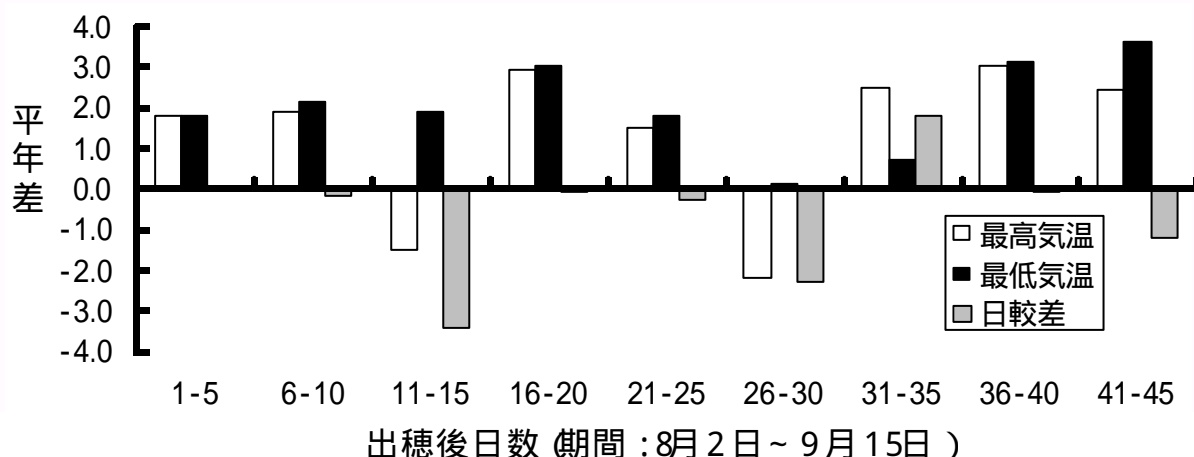
ある。

出穂翌日から10日までは最高・最低気温ともに高く、日照も多かった。11～15日は最高気温が平年より低く、最低気温は高く、日較差は平年より3以上小さくなった。日照時間も平年比13%と少なかった。

登熟半ばの16～25日にかけては、最高・最低気温ともに高く、日較差は平年をわずかに下回った。26～30日は最高気温が低く、最低気温はほぼ平年並で日較差は小さく、日照時間も平年比31%と少なかった。36日以降は最高・最低気温ともに高く、特に、最低気温が平年より3以上高かった。日較差は平年を下回り、日照時間も平年以下であった。

登熟期間を通じては、最高気温は平年より低い時期があったが、最低気温は平年より高い状態で経過し、日較差も全般的に平年より小さかった(表1及び図2)。

図2 出穂後日数別の平年差



# 生育経過 登熟は緩慢

## 【生育調査圃の出穂後25日調査結果】

北部平坦では、 $m^2$ 当たりの穂数は506本で、平年比113%、1穂当たりの粒数は62.3粒で平年比95%となった。 $m^2$ 当たりの粒数は313百粒で、1穂粒数は少ないものの穂数が多いことから平年比107%となった。南部平坦は、 $m^2$ 当たりの穂数は511本で平年比114%、1穂粒数66.0粒で平年比102%、 $m^2$ 当たりの粒数は338百粒で平年比116%であった。沈下粒数歩合は、 $m^2$ 当たりの粒数が平年並であった西部丘陵及び山間高冷を除き、いずれも平年を下回っており、特に南部平坦と仙台湾沿岸で大きく低下している。

県全体では、 $m^2$ 当たり穂数は平年を上回り、1穂粒数は平年をわずかに下回った。 $m^2$ 当たり粒数は、穂数が多いことから平年を上回った。沈下粒数歩合は平年をわずかに下回った(表2)。

表2 地帯別生育状況

| 地帯区分  | 調査圃数 | $m^2$ 当たり穂数 |            |            | 1穂粒数      |            |            | $m^2$ 当たり粒数 |            |            | 沈下粒数歩合    |            |            |
|-------|------|-------------|------------|------------|-----------|------------|------------|-------------|------------|------------|-----------|------------|------------|
|       |      | 本年<br>(本)   | 平年比<br>(%) | 前年比<br>(%) | 本年<br>(粒) | 平年比<br>(%) | 前年比<br>(%) | 本年<br>(百粒)  | 平年比<br>(%) | 前年比<br>(%) | 本年<br>(%) | 平年差<br>(%) | 前年差<br>(%) |
| 北部平坦  | 18   | 506         | 113        | 109        | 62.3      | 95         | 94         | 313         | 107        | 102        | 81.8      | -3.2       | -0.6       |
| 南部平坦  | 7    | 511         | 114        | 109        | 66.0      | 102        | 105        | 338         | 116        | 115        | 76.4      | -9.2       | -2.9       |
| 仙台湾沿岸 | 7    | 554         | 108        | 125        | 60.9      | 101        | 91         | 337         | 109        | 115        | 81.4      | -10.6      | +7.5       |
| 三陸沿岸  | 3    | 493         | 98         | 112        | 60.4      | 101        | 95         | 295         | 109        | 106        | 85.7      | -3.7       | +0.4       |
| 西部丘陵  | 6    | 460         | 106        | 106        | 63.1      | 94         | 93         | 287         | 98         | 99         | 87.6      | +4.2       | +3.3       |
| 山間高冷  | 2    | 385         | 97         | 104        | 73.7      | 102        | 99         | 284         | 100        | 102        | 89.7      | +2.1       | +2.9       |
| 県平均   | 43   | 502         | 110        | 110        | 63.2      | 98         | 96         | 315         | 107        | 106        | 82.3      | -3.3       | +1.0       |

注) 平年: 過去5年平均値。 平年比: 差: 平年値を有する調査圃のみ比較

## 【作況試験圃の登熟状況】

農業センター作況試験圃のひとめぼれとササニシキ(いずれも5月10日稚苗植)の成熟期は、それぞれ9月10日、9月13日で、ひとめぼれが8日、ササニシキは6日平年より早かった。

両品種の登熟状況を下図に示した。ひとめぼれは、出穂後30日まではほぼ平年並に経過したが、その後、緩慢となり35日以降はほぼ横ばいで推移した。ササニシキは平年をやや下回った状態で推移し、ひとめぼれ同様、出穂後30日あたりから緩慢となった(図3及び4)。

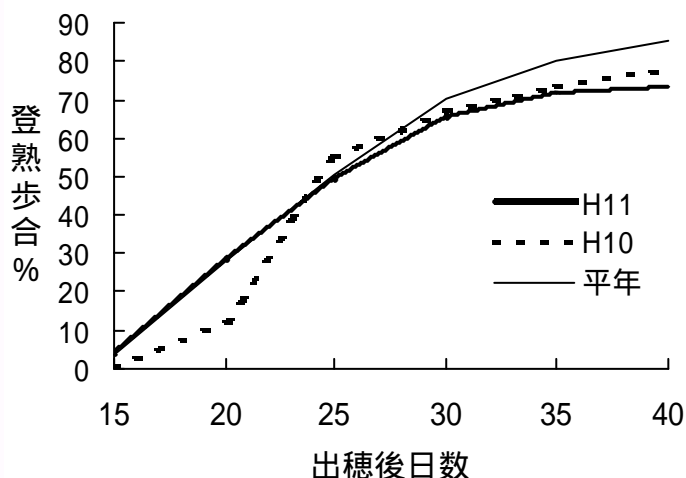


図3 登熟歩合の推移 (ひとめぼれ)

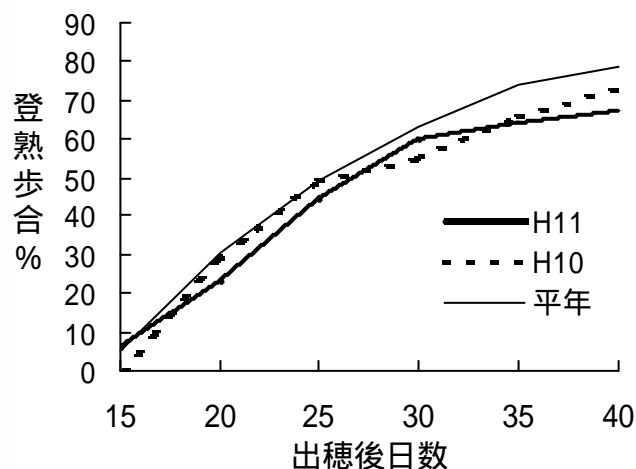


図4 登熟歩合の推移 (ササニシキ)

下の図は、玄米千粒重(粒厚1.7ミリ以上)の推移を表したものである。ひとめぼれは、出穂後30日までは平年を上回っていたが、その後、粒重の増加が鈍化し、平年をやや下回る状況となった。ササニシキは出穂後15日時点では平年を上回ったが、その後は平年並で推移し、ひとめぼれと同様、出穂後30日からは平年をわずかに下回った(図5及び6)。

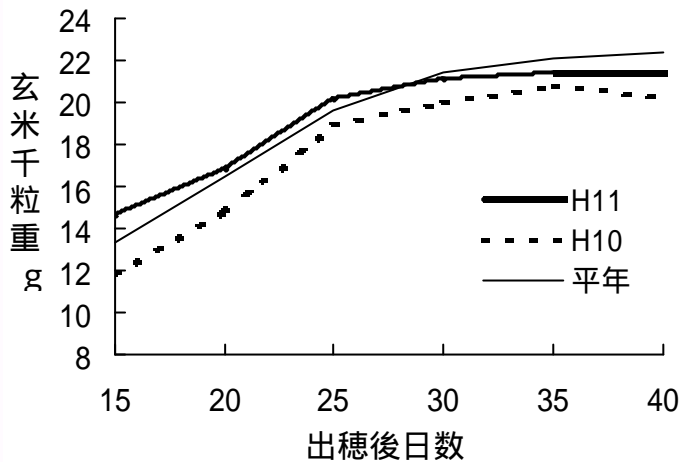


図5 玄米千粒重の推移 (ひとめぼれ)

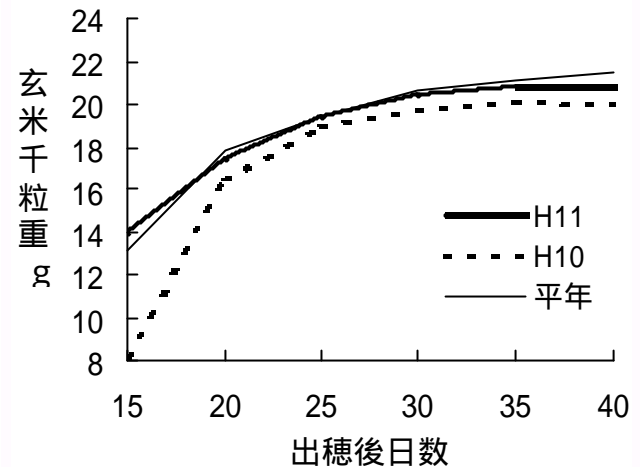


図6 玄米千粒重の推移 (ササニシキ)

## これからの作業の要点

本年は、刈取り適期が早まったものの9月上旬後半から降雨が続いたため刈取り作業が遅れた。今後は、適正な乾燥と調製で品質の確保に努める。

### 【火力乾燥】

過乾燥は、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下等品質低下の原因となるほか、灯油や電気代等の生産コストが増加するので、きめ細かい水分測定により防止する。

### 【自然乾燥】

乾燥ムラを少なくするため、乾燥期間中に必ず掛け替えをする。時々、籾の水分を測定し、15.5%になったら脱穀する。

### 【籾 摺】

籾摺は、肌ずれ防止のため、火力乾燥した籾は、籾の温度を室温まで下げてから行う。また、ロール式籾摺機の場合は、籾(品種)に見合った適正なロール間隙に調整する。

### 【選 別】

米選機の網目はLL(1.9ミリ)を使用し、整粒歩合80%以上を確保する。